

■ゴッシュの特徴

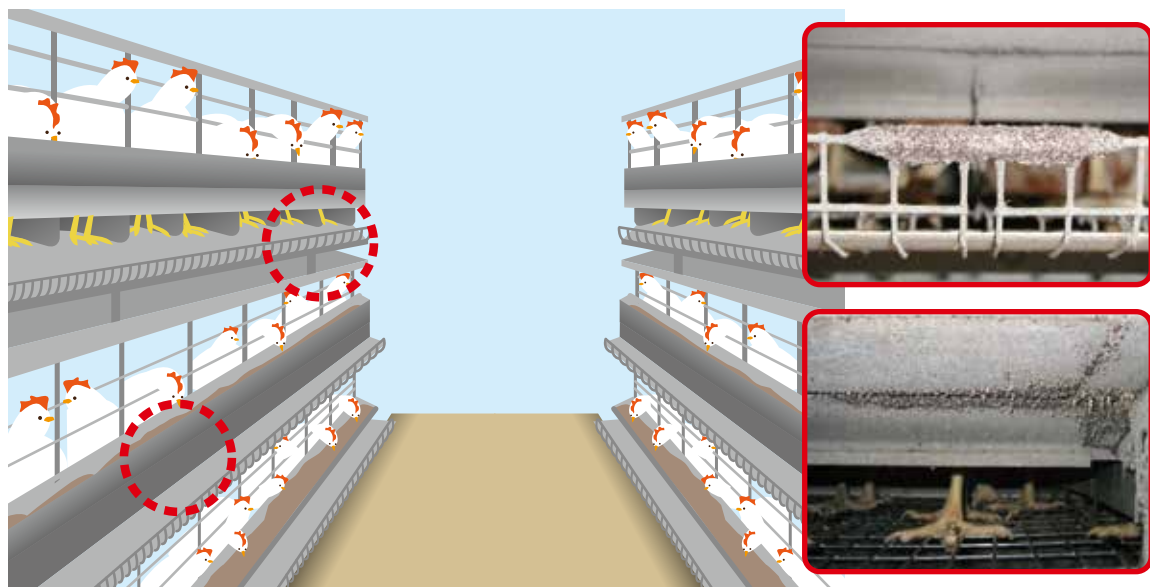
1 既存殺虫剤に抵抗性を持つワクモに対しても有効です

2 効果が長期間持続するので作業時間・頻度を軽減できます

3 鶏と作業者に対して非常に安全性が高い薬剤です

■ワクモの発生ポイント

ワクモの発生しやすい箇所を破線^①で囲んで表示しています。



本来、ワクモはケージ支持台や餌どい、卵受けにコロニーを作っています。目に見えるところにワクモが多いということは、膨大な数が生息しているということです。

■基本プログラム(オールイン/オールアウト時)



ゴッシュは噴霧後、長期間の持続効果が期待できます。従って、オールアウト後は水洗・消毒を行い、最後にゴッシュを噴霧してください。

注) ワクモが増えはじめたら、早めにゴッシュを再噴霧してください。

動物用医薬品

ゴッシュ

GOSH

成分および分量 エトキサゾール2.5g(100g中)

用法および用量 本剤を100倍に水で希釈し、ケージ底面積1㎡あたり400mL(エトキサゾールとして92.5~94.5mg)となるように、ワクモの生息場所(ケージ、卵受け、餌受け、壁、天井など)に噴霧する。

効能または効果 鶏舎内のワクモの駆除

注意 使用基準の定めるところにより使用すること。

5L

使用上の注意

【一般的注意】

- (1) 本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
- (2) 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
- (3) 鶏体への直接噴霧はしないこと。
- (4) 本剤を鶏舎に噴霧する場合には「使用基準」の定めるところにより使用すること。
- (5) 希釈液はその都度必要量を調製し、使い切る。また直射日光の下に放置しないこと。
- (6) 家禽の飼料、飲水、卵等はあらかじめに移すかあるいは格納するなどの措置を施し、薬剤ができるだけかからないようにすること。採卵後または給餌前に噴霧すること。なお、鶏卵に薬剤がかかった場合は、廃棄すること。
- (7) 本剤と他の薬剤を混合したり加熱したりしないこと。
- (8) 小分けしたり、水で希釈するときは、薬剤の容器は専用のものとし、食品用の容器等、誤用の恐れのあるものを使用しないこと。なお、小分けしたものは必ず使い切り元の容器には戻さないこと。
- (9) 希釈の際には、薬液がはね返らないようにして均一に攪拌し、直接手指でかき混ぜるようなことはしないこと。
- (10) 壺(甕)、甲殻類等に被害を及ぼす恐れのあるところでは使用しないこと。
- (11) 噴霧に当たっては、環境を汚染しないよう乱用をさけること。特に薬剤が直接河川、湖沼、海域又は養殖池に流入するおそれのある場所では使用しないこと。
- (12) 使用済みの空容器及び薬液は、小児が弄ばないようにして、自治体の条例や指導に従って適切に処分すること。決して河川、湖沼、下水道等の水系や地下水を汚染するおそれのある場所には捨てないこと。
- (13) 漏らした場合には次のように処置すること。
①薬剤が漏洩した場合は、吸収性の媒体、例えば砂、軽石、ぼろ布、オガクズ等に吸着させ、広がりを阻止して回収すること。
②漏洩した薬剤が、井戸、池、河川などの水系に流入した場合は、直ちに警察または保健所に届出をすること。

注意：本剤は薬事法第83条の4の規定に基づき上記の用法及び用量を含めて使用者が遵守すべき基準が定められた動物用医薬品ですので、使用対象動物(鶏)について上記の用法及び用量並びに次の使用禁止期間を遵守して下さい。
鶏：食用に供するために殺する前5日間

【使用者に対する注意】

- (1) 薬や化粧品等によって、アレルギー症状やかぶれ等を起こしやすい体質の人は、薬剤の噴霧や処理作業には従事しないこと。
- (2) 万一、誤って薬剤を飲み込んだ場合や薬剤の使用により身体に異常を来たした場合は、使用を中止し、直ちに医師の診察を受けること。医師の診察を受ける際には、オキサゾリン系薬剤を含む殺虫剤を使用した旨、症状等についてできるだけ詳細に医師に告げること。
- (3) 噴霧にあたっては、防護具(長袖の作業衣、作業帽、保護メガネ、保護マスク、ゴム手袋等)及び使用する機械器具は、あらかじめよく点検整備しておくこと。使用に際しては、防護具を必ず着用し、できるだけ身体の露出部を少なくして薬剤を浴びないようにするとともに、吸い込まないように注意すること。なお、屋内での使用の際には必ず換気を行うこと。
- (4) 薬剤の準備や噴霧中は、喫煙・飲食をしないこと。使用中又は使用後にトイレに行くときは、手や顔をよく洗うこと。
- (5) 使用した後、あるいは薬剤が皮膚に付いたときは、直ちに石けん等でよく洗うこと。万一、眼、口等に入った場合は、直ちに水でよく洗い流すこと。作業中に多量の薬剤が衣類等に付着した場合は、直ちに汚染した衣類を脱ぎ、シャワーを浴びるなどして身体に付着した薬剤を洗い流し、清潔な衣類に着替えること。
- (6) アレルギー体質等で刺激を感じた場合には、直ちに使用を中止すること。

【鶏に対する注意】

- (1) 本剤を噴霧する際、できるだけ薬剤が鶏にかからないようにすること。
- (2) 本剤は速効的な駆除を目的として用いないこと。
- (3) 本剤はワクモに対する殺卵、殺幼ダニ及び殺若ダニ効果は強いが、殺成ダニ効果がないので遅効的である。したがって薬剤噴霧後2週間は再度の噴霧をしないこと。
- (4) ワクモの繁殖は早いので、密度が高くなると防除が困難になるので、できるだけ発生初期に薬剤を噴霧することが望ましい。

【取扱上の注意】

- (1) ワクモの生息場所を確認し、的確にワクモに薬剤がかかるよう噴霧すること。なお、高床式鶏舎では鶏の飼育されている2階部分に本剤を噴霧すること。
- (2) 本剤の原液は引火の恐れがあるので、火気のある場所では使用しないこと。また、電気火花が発生しそうなところでは電源を切ってから使用すること。

【保管上の注意】

- (1) 食品、食器、飼料と区別し、小児の手の届かない暗所に保管すること。
- (2) 使用後、残った薬剤は、必ず保管場所に戻し、栓は確実に締め付けておくこと。

【その他の注意】

- (1) 噴霧液が植物にかかると枯れる恐れがあるので注意すること。
- (2) 作業時の衣類は他の衣類と区別して洗濯し、防護具も洗剤でよく洗うこと。
- (3) 希釈や噴霧に用いた器材は、石けん等でよく洗い、小児等が触れないようにすること。特に噴霧器はよく手入れをしておくこと。

貯蔵方法/気密容器・遮光



ワクモ対策の新時代へ

—良好な鶏舎環境を実現します—

ゴッシュ

GOSH

動物用医薬品

販売元 ZENOQA 日本全薬工業株式会社
福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1

製造販売元 SES 住化エンバイロメンタルサイエンス株式会社
大阪府大阪市中央区道修町二丁目2番8号

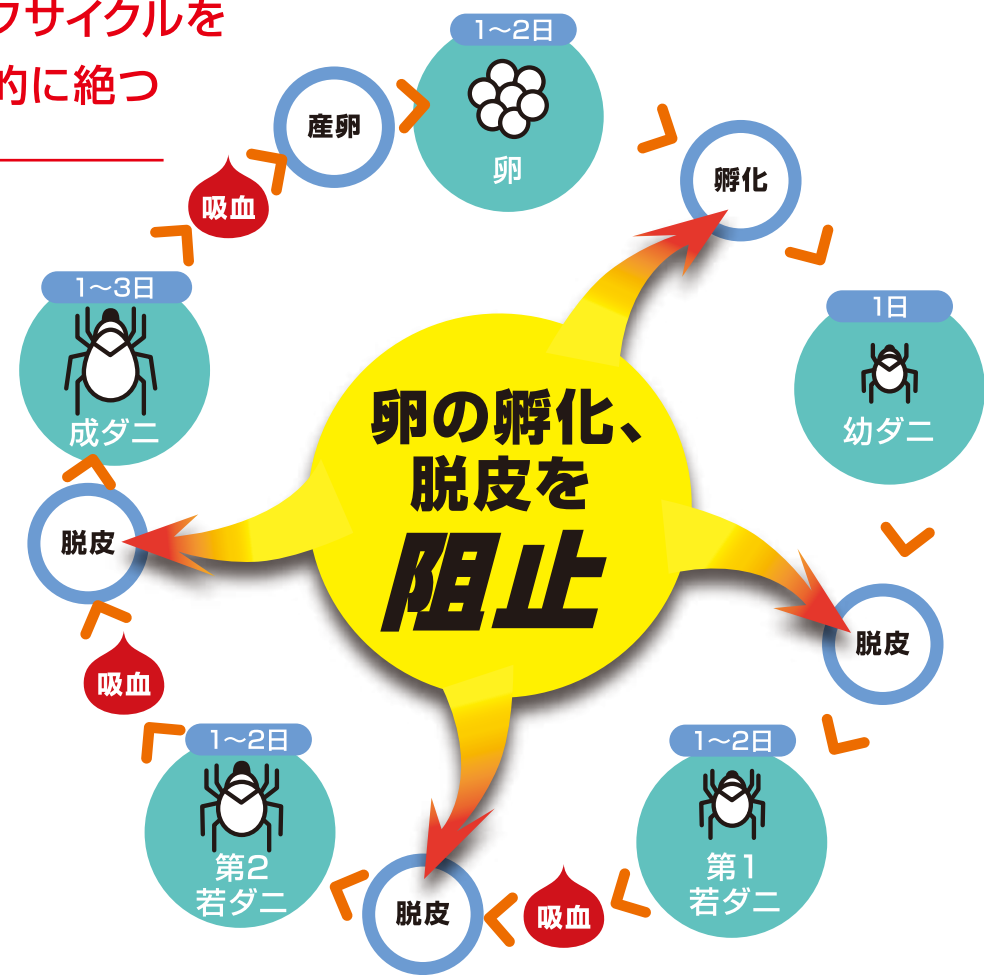
「孵化させない、脱皮させない」

IGR = insect growth regulators (昆虫成長制御剤) は、まったく新しい、ワクモ駆除の「進化形」です

ワクモの成長段階でライフサイクルを遮断

ゴッシュは、従来の殺ダニ剤（殺虫剤）と作用の異なるIGR作用をもった新しいタイプの殺ダニ剤です。幼ダニと若ダニの脱皮を阻止し、成ダニが産卵した卵の孵化も抑えるため、ワクモのライフサイクルを遮断します。

ライフサイクルを効果的に絶つ



ゴッシュの噴霧で実現する、「増殖させない環境」

長期にわたって持続する効果

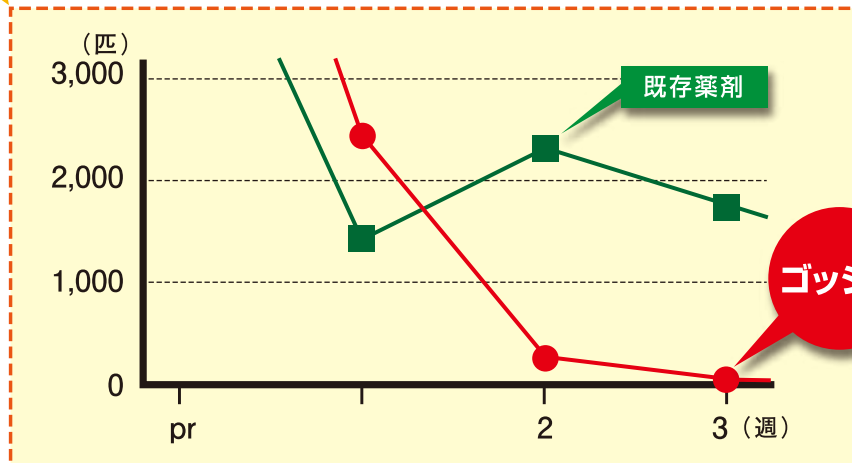
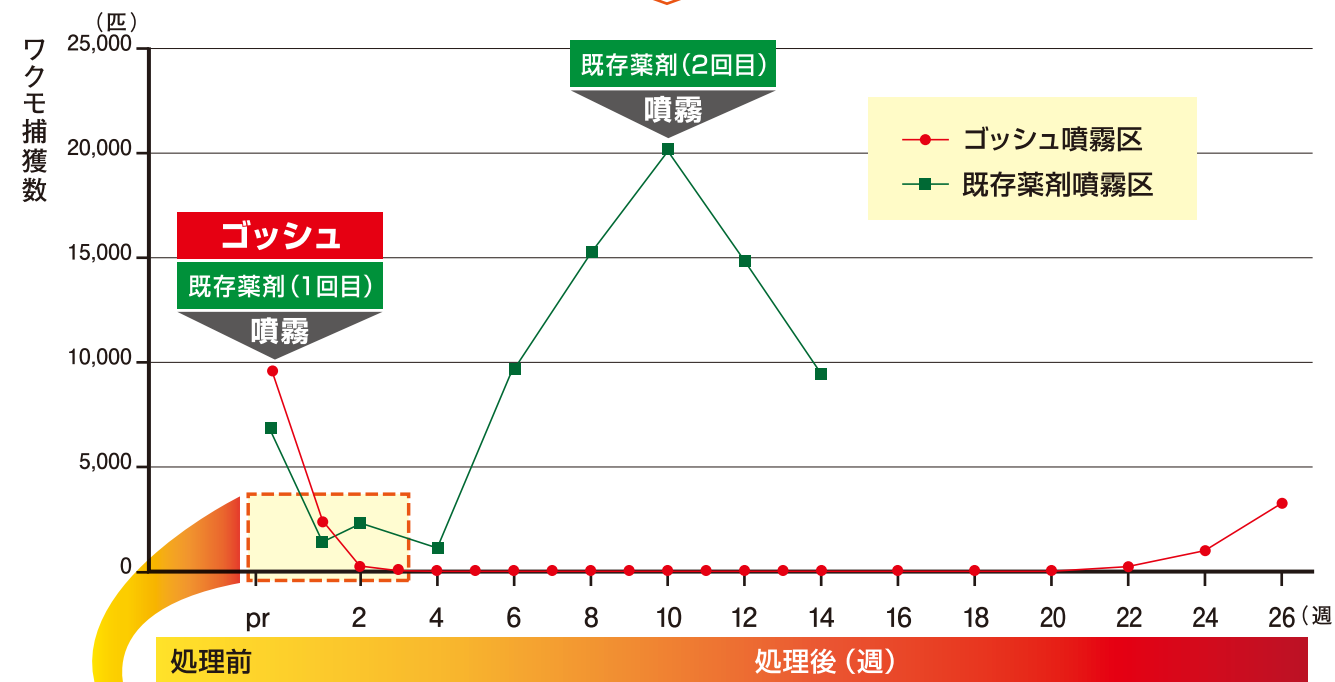
ワクモに対する野外試験効果

鶏舎内のワクモに対するゴッシュの効果を確認するために採卵養鶏場で試験を実施しました。

試験方法

ゴッシュ100倍希釈液と既存薬剤（カーバメイト系）150倍液をそれぞれ鶏舎内に噴霧し比較しました。

試験結果



ワクモによる被害。なぜ対策が必要なのか？

小さく、見えづらくても被害は甚大です

1

生産性、商品価値の低下

吸血によるストレスや産卵率の低下、またワクモの血液や排泄物による汚れが原因となる商品価値の低下が生産者を悩ませています。

2

疾病の媒介

ニューカッスル病ウイルスの媒介やサルモネラ菌などの病原微生物を運び、他の鶏に感染を広めます。

3

作業環境

養鶏場作業者への寄生により、痒み、不快感、アレルギー症状を引き起こす被害が多くなっています。

鶏はもちろん、哺乳動物に対して安全性の高い薬剤です

I. 鶏に対する安全性

試験方法

産卵鶏をケージに入れ、20倍希釈液(5倍量)を1㎡あたり400mLとなるように鶏の上から1日1回、3日間連続噴霧して、鶏に対する影響を調べました。

試験結果

試験群	一般状態	投与部位の臨床所見	体重	飼料摂取量	産卵率	血液生化学的検査	血液学的検査
5倍群	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし
対照群	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし

II. 哺乳動物に対する安全性

	投与経路 期間	投与量 (mg/kg)	LD (mg/kg)	
			雄	雌
急性毒性 (ラット)	経口(強制) 14日間観察	2,000	>2,000	>2,000
	経皮 14日間観察	2,000	>2,000	>2,000

異常及び死亡例は認められませんでした

用法用量を守って使用してください。